

「リモート認知症カフェ」応援事業実施状況

1 事業目的

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域のボランティア団体等が運営する認知症カフェの多くが休止する中、「新しい生活様式」に対応した、Web を用いたリモートによる認知症カフェの開催を支援することで、コロナ禍において地域で認知症の人やご家族を支えるために活動する団体を支援する。

2 支援内容

ア タブレット端末の無償提供

- ・ 認知症カフェの運営団体等が、Web 会議システムを用い、リモートによる認知症カフェを開催することができるよう、タブレット端末を無償で提供
- ・ 希望する団体に県が通信料負担（令和3年3月31日まで）

イ 開催方法や、機器の操作についてサポート

- ・ リモート認知症カフェ開催方法やタブレット端末の操作方法等を内容とするマニュアルを作成、団体等へ配布
- ・ カフェ運営に係るアドバイザーによる助言・指導
- ・ リモート認知症カフェ開催セミナーの実施及び動画の作成、公開



【マニュアル（主催者編）】

〈参考：令和2年度リモート認知症カフェ開催セミナー実施状況〉

	第1回	第2回
日時	11月27日（金） 18時30分～20時45分	12月2日（水） 13時30分～15時45分
場所等	ビデオ会議アプリ「Zoom」により実施	
参加者数	23名	21名

ウ サポートデスクの設置

タブレット端末の操作に係るサポートデスクを設置(令和3年3月31日まで)

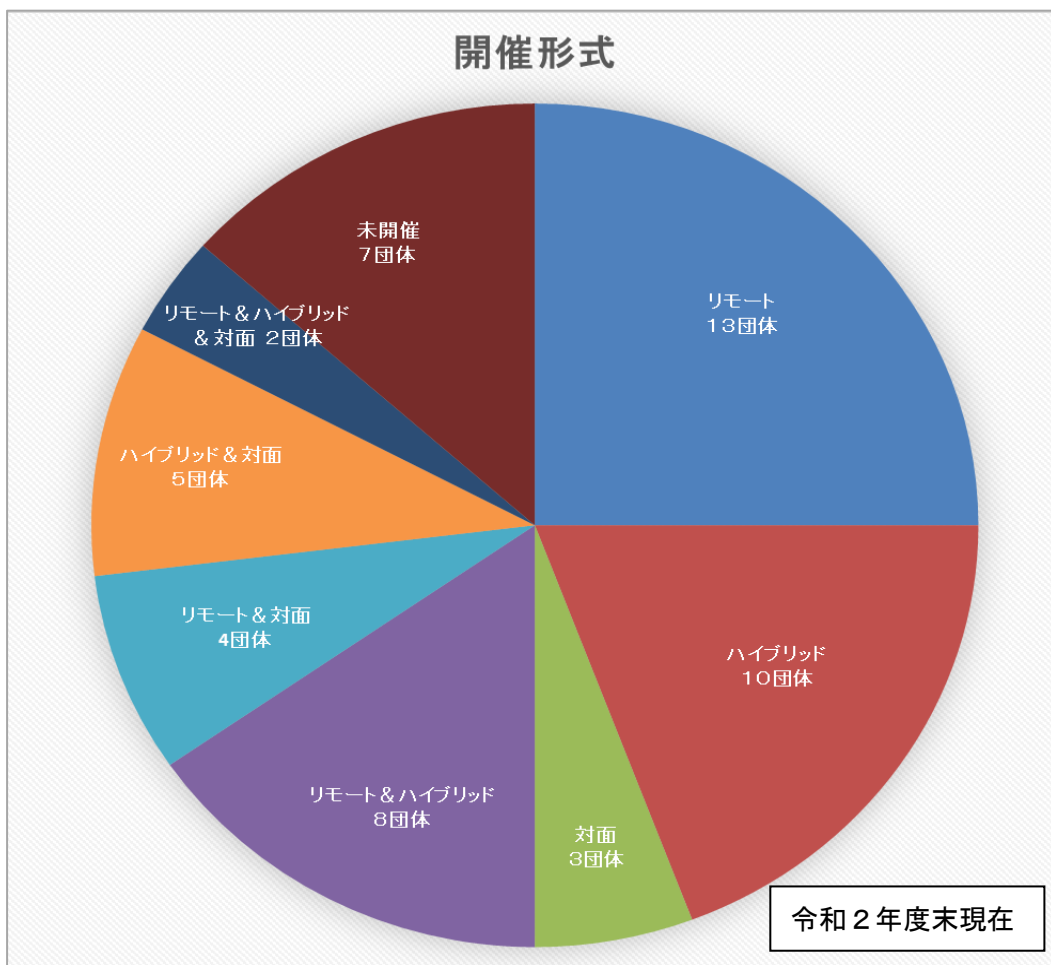
3 実施状況

■採択団体数：52 団体

〈参考：採択団体属性〉

ボランティア団体	市民団体・グループ	介護施設	NPO法人	病院	一般社団法人	地区社協	家族会	自治会	学校法人	その他
12	11	9	5	4	2	1	1	1	1	5

合計 52 団体



■主な意見

○ 参加者の様子

・感染予防を考慮してのカフェの再開にかなり喜んでいらっしやった。また、会場にいらっしやらない方の顔が画面に映ると、歓声が上がりみんなで手を振るといった光景が見られた。

・コロナ渦で外出機会が少ない中、みんなと会えてうれしい。嬉しいことや不満を言える機会があってよかったといった様子。

・ハイブリッド形式で実施。最初は画面越しで家族の顔が映ることに不思議な様子で違和感があったようだが、次第に会場にいる参加者とオンラインでの参加者が手を振りあうなど、交流を図ることが出来た。

○ 御本人からの感想等

・ZOOMは難しく、活用には至らなかったが、きっかけとなって、LINEをスマホで使うようになった。今は、カフェの出欠など、80代の方が、LINEで送ってくれるようになった。

・参加者同士、顔が見れるので良いなと思った。これまでタブレットなど使ったことがなかったが、そういったものに挑戦するきっかけとなった。

・皆に会うとホッとする。コロナ禍、家族以外と話す機会がないので、楽しく話が出来てよかった。新しいことに挑戦出来て家にいながら(若者に負けず)交流出来、達成感があった。

○ 御家族からの感想等

・コロナ禍で本人がほとんど家を出なくなり、1日中テレビを見ていることが多くなっていたので、どうせ画面を見ているならこういった動画を見ながら体を動かしているほうが良いと思う。

・認知症カフェへの参加はリモートが初めてだったが、とても勉強になり、今後は直接の参加もしていきたい。

・対面でのみでしかカフェを開くことが出来なかったと思っていたが、皆さんの尽力によって画面を通して楽しむことが出来て良かった。今後も続けて欲しい。

・今回の機会を頂いて初めてリモートを体験した。母にはテレビとリモートの違いが理解できるはずもなく、ハラハラだったが、皆さんの声掛けに調子に乗って、ご機嫌だった。(実母介護)

・最初は恥ずかしいと言っていた母がおもしろいなあ〜と終始笑顔だった。照れ屋な義母だが、誕生日を祝っていただき、恥ずかしがるかと思っていたが、素直に喜んでくれた。(義母介護)

・本人ミーティングは本人のみのあつまりの為、本人がどのような気持ちなのかわからなかったが、リモートだと理解することが出来た。

○ 主催者の感想等

・役所もリモート会議に対応できていないところも多い中、素早い対応で驚いた。リモートカフェの可能性を後押ししてもらえたのは、とてもありがたかった。

・i-Padについて、早い段階で提供いただき中止していたカフェを早期に再開することが出来た。今も活用が出来ている。他の市民団体でもオンライン認知症カフェをやろうという気運が高まっているのを聞く。またこのような補助をしていただけるともっと盛り上がりを見せられると思う。

・あらたな取り組みを検討する場合、経済的な負担がないことでハードルが下が

り、検討・実施することにつながったと思う。タブレット配布をしていただいた事により、機器がないからできないということが回避できた。背中を押された。

- ・県の取り組みがなかったらリモートをやることは出来なかったと思います。
- ・良い事業だと思います。神奈川県に端末をいただけたことも、ネットがつながっていたことも大きかった。セミナーで話してくださった横須賀カフェのお話もとても参考になった。年に一度関係者の情報共有なども楽しいかもしれません。
- ・タイムリーにタブレットを配布していただきありがとうございます。コロナ渦で外出する事や人に接することに不安を持たれた若年性認知症の本人や家族にとってリモートで開催できたのは大変良かったです。感謝しています。

○ タブレットのその他の用途について

- ・タブレットがきっかけとなって、LINE をスマホで使うようになった。今は、カフェの出欠など、80代の方が、LINE で送ってくれるようになった。
- ・カフェ来店時に、普段自宅では見ることができない、懐メロのYouTubeなどを楽しんでいただいている。小学生や、乳幼児親子の出入りもあるので、動画の編集など、活用の幅は広い。
- ・「スマホはあるけれど、タブレットってどんな感じなのかしら」という94歳女性に貸し出している。地域のカラオケクラブから「試しに使ってみたい」などのオファーがあるので貸し出しも検討。地域や高齢者ニーズに対応していきたい。
- ・活動風景やメッセージをビデオで頂き、それを編集し一つのビデオメッセージとし、別日に参加している参加者に見せた。見た参加者から元気そうで良かったという声があがった。
- ・脳いきいき教室で、塗り絵や囲碁のゲーム等に90代の方が楽しんでる。
- ・筆談アプリを使用して（しゃべって筆談）聞こえの悪い方に対応している。
- ・体操・介護予防講座のYoutubeチャンネルを開設して、出張して紹介し、一緒にやっただいている。

○ 令和3年度に向けた抱負

- ・引き続き、活用方法を模索して認知症カフェも健康教室も、実開催+オンライン参加の形を併せて行う形で端末を活用させていただこうと考えている。
- ・より多くの方の参加のきっかけになるように貸出先を増やしたい。また、認知症カフェに限らず、本人の意欲に繋がるコンテンツ、認知症を正しく知るコンテンツにアクセスしてもらえるように支援したい。
- ・「認知症カフェ」という名前なのに該当者は参加していない現実。考え方を改めて、「認知症になっても仲間外れにしない町づくり」を目指す一人一人がスタッフとして、インターネットが使えるように練習しながら、今後外に出られない方のところにタブレットを持って該当者が参加できるシステムに移行できるようにしたい。